

議題 イ

札幌市下水道事業中期経営プラン2020 の策定について

説明の流れ

1 中期経営プラン2015の実施状況

- ① 事業計画の実施状況
- ② 財政計画の実施状況

2 中期経営プラン2020の策定について

1 中期経営プラン2015の実施状況

① 事業計画の実施状況

< 達成できた主な項目 >

項 目	目標値(H27末)	見込値(H27末)
管路テレビカメラ調査延長	390km	472km
管路改築延長	120km	133km
雨水拡充管整備延長	193km	198km
水再生プラザ(管理棟)の耐震化率	100%	100%
合流式下水道対策率	70%	70%

< 達成できなかった主な項目 >

項 目	目標値(H27末)	見込値(H27末)
幹線管路のマンホール耐震化	102か所	77か所
圧送管バックアップシステム整備率	91%	84%

→ 中期経営プラン2020期間中に達成となる予定

事業計画の達成目標は、概ね達成する見込み

② 財政計画の実施状況

< 安定した経営のための基盤強化(財務体質の強化) >

- ・ 計画事業費の範囲内で必要な事業を執行
- ・ 厚別コンポスト事業の廃止
- ・ 汚泥処理の集中化の完了
- ・ 厚別水再生プラザの運転管理委託の実施

効率的・効果的な事業運営に努め、経営の効率化を図った

< 財政計画の進捗状況 >

- ・ 下水道使用料収入の増加
- ・ 企業債の支払利息の減少
- ・ 経営の効率化の推進

以上の要因などにより、累積資金残高は計画に対して好転

(計画値) (実績値)
13億円 → 49億円

2 中期経営プラン2020の策定について

中期経営プラン2020策定の経緯



プラン2015が平成27年度で終了するため、ビジョン2020の後半5年間の行動計画として、プラン2020を策定する

中期経営プラン2020

第1章 策定の背景

第2章 中期経営プラン2020の位置づけと取組方針

第3章 主要施策の展開

第4章 健全で安定した経営への取組

第5章 下水道サービスの向上

第6章 進行管理

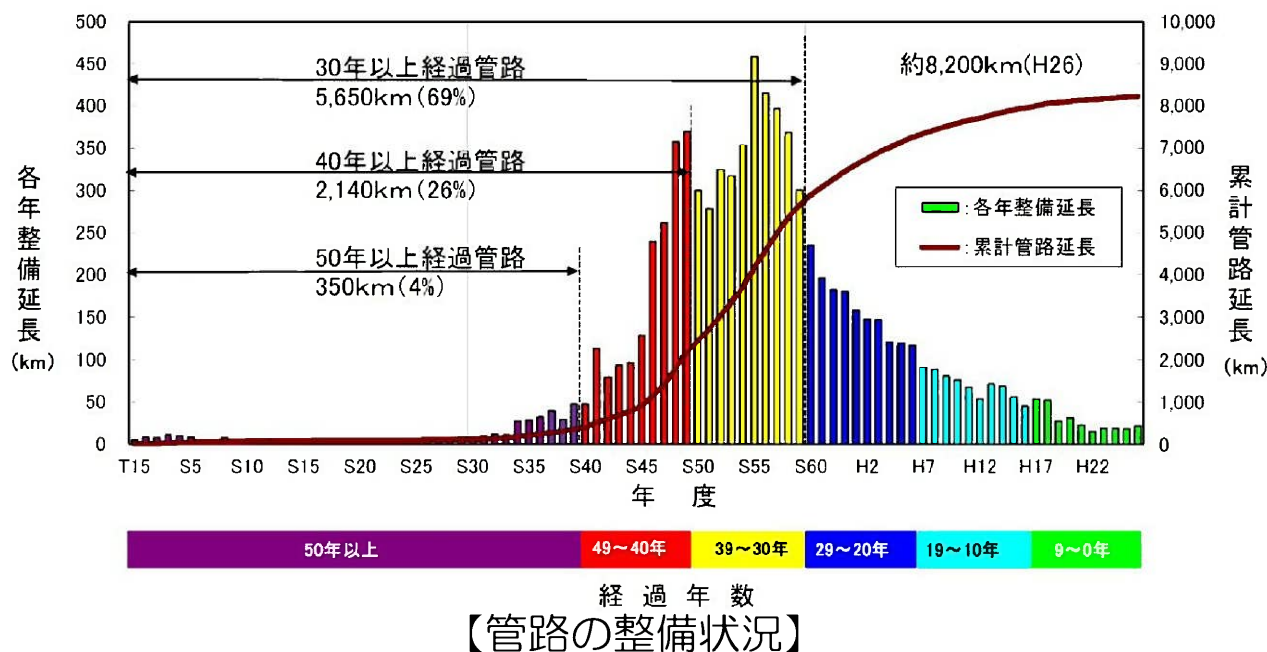
<策定の目的>

近年の社会経済状況の変化により、下水道事業を取り巻く環境が大きく変化する中、下水道を「次世代へつなぐ」ため、長期的な視点を持ちながら、今後5年間の下水道事業を計画的・安定的に実施することを目的として『札幌市下水道事業中期経営プラン2020』を策定。

<下水道事業の現状と課題>

(1) 下水道施設の整備状況と老朽化対策

○約8,200kmの下水道本管のうち、今後20年間で69%が50年を経過するため、効率的かつ効果的な老朽化対策が必要。



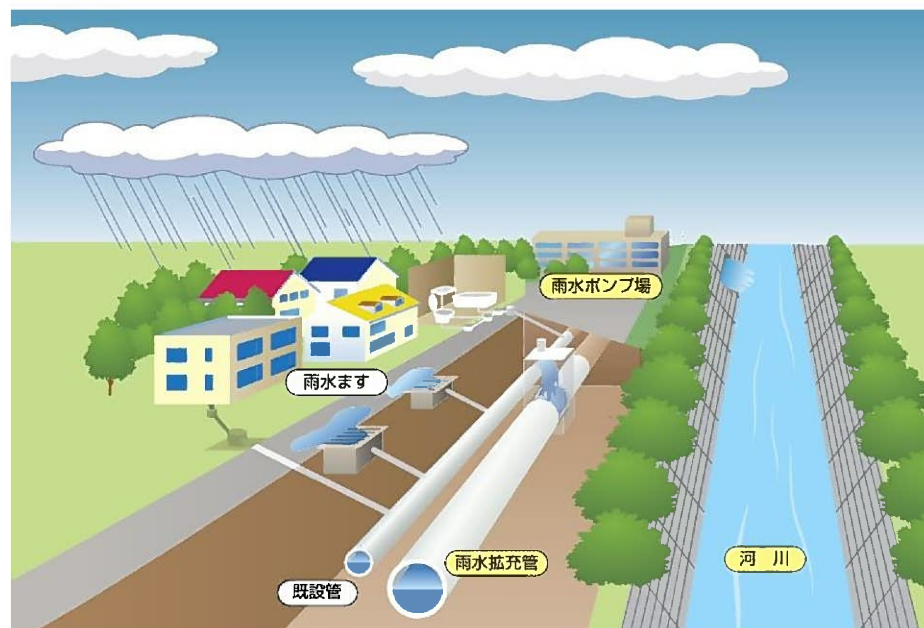
<下水道事業の現状と課題>

(2) 下水道施設における雨水対策

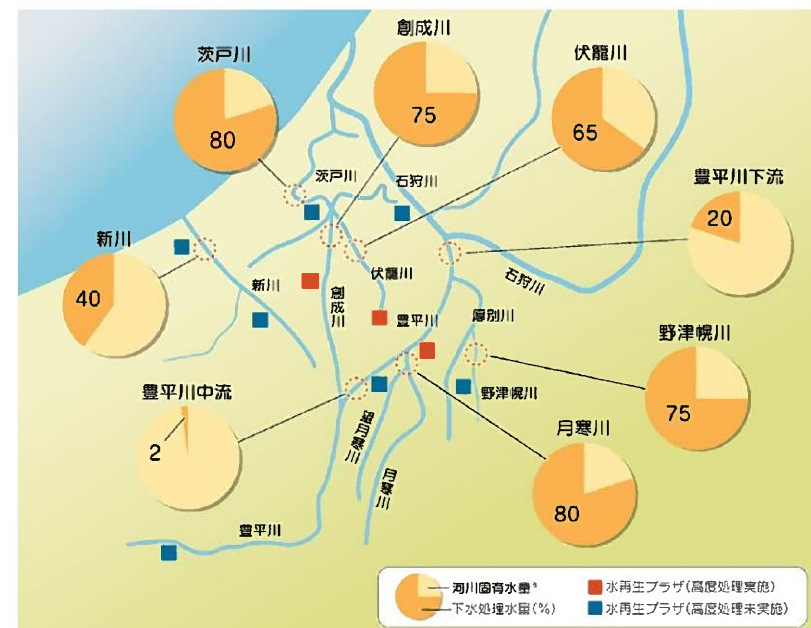
- 10年確率降雨（札幌市では35mm/h）を目標として、雨水拡充管を中心としたハード整備を進めることが必要。
- 局所的な集中豪雨の対応として、減災の視点を持ち、ハード・ソフトの両面での対策が必要。

(3) 水質改善

- 河川水量に占める処理水量の割合が大きいため、安定した下水処理が必要。
- 合流式下水道の改善が必要。



【雨水拡充管イメージ】

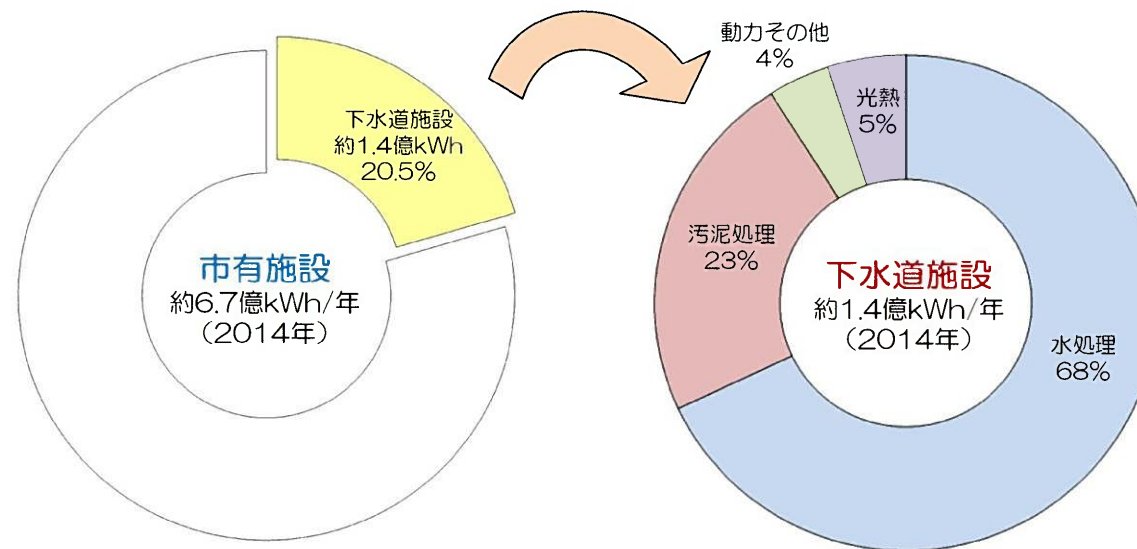


【晴天日の河川水量に占める下水処理水の割合】¹⁰

<下水道事業の現状と課題>

(4)循環型社会への貢献

- 市有施設の使用電力量のうち、約20%を下水道施設で使用。
- 下水道は多くの資源・エネルギーポテンシャルが存在。
- 創エネ・省エネの両面からの対策が必要。



【市有施設及び下水道施設における使用電力内訳】

(5)経営環境の変化

- 維持管理費・建設事業費は今後増加の見込み。
- 使用料収入は今後減少の見込み。
- ベテラン職員の退職増等による技術力の低下。
- 財務体質の強化、人材育成、技術継承が必要。

中期経営プラン2020

第1章 策定の背景

第2章 中期経営プラン2020の位置づけと取組方針

第3章 主要施策の展開

第4章 健全で安定した経営への取組

第5章 下水道サービスの向上

第6章 進行管理

<基本方針と基本目標(ビジョン2020より)>

○「下水道ビジョン2020」で掲げた以下の方針を継承し、中期経営プラン2020の基本方針と基本目標とする。

● 基本方針

次世代へ良好な「暮らし」「環境」「資産と技術」をつなぎます

● 基本目標

- I 安全で安心な市民生活を維持します
- II 環境に与える負荷の低減に努めます
- III 健全で持続可能な経営を目指します

<5年間の取組方針>

○平成28年度からの5年間は、次の4つの取組方針を掲げ、下水道事業を計画的に運営する。

取組方針 1

いつまでも安心して暮らせる街にしていくため、市民生活を支える下水道の維持管理・改築を計画的かつ効率的に進めます。

取組方針 2

災害に強いまちづくりを目指して、大雨などの自然災害による被害を軽減するよう、ハード・ソフトの両面で都市基盤の強靱化を進めます。

取組方針 3

清らかな水環境を保全するとともに、下水道エネルギーや資源の有効利用に努め、循環型社会へ貢献します。

取組方針 4

良質な下水道サービスを継続して提供できるよう経営の効率化を図り、経営基盤の強化に努め、将来の下水道の担い手を育成します。

中期経営プラン2020

第1章 策定の背景

第2章 中期経営プラン2020の位置づけと取組方針

第3章 主要施策の展開

第4章 健全で安定した経営への取組

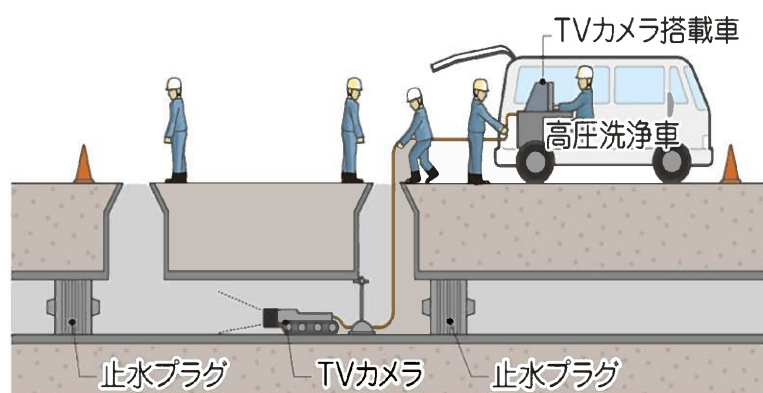
第5章 下水道サービスの向上

第6章 進行管理

<下水道施設の維持管理>

【計画事業費 973億円】

- 管路の維持管理
- 処理施設の維持管理



【テレビカメラ調査】



【処理施設の保守点検】

■主な達成目標

	27年度末	32年度末	備考
下水道本管 詳細調査延長	564km (H23-H27)	1,060km (H28-H32)	5年間のテレビカメラ等 による詳細調査延長
設備修繕箇所数	870か所 (H23-H27)	950か所 (H28-H32)	5年間の機械・電気設備 の修繕箇所数

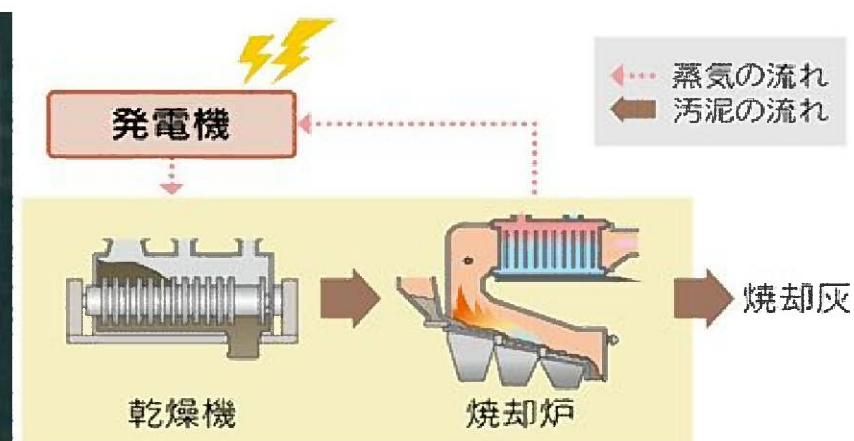
<下水道施設の再構築>

【計画事業費 692億円】

- 管路の改築
- 水再生プラザ・ポンプ場の改築
- 西部スラッジセンター焼却炉（1・2号炉）の改築



【管更生工法による管路の改築】



【蒸気発電設備の導入】

■主な達成目標

	27年度末	32年度末	備考
管路改築延長	46km (H23-H27)	119km (H28-H32)	5年間の老朽管路・軟弱地盤地区の管路改築延長
改築施設数	17か所 (H23-H27)	23か所 (H28-H32)	5年間で設備の改築を予定している施設数

<下水道施設の災害対策>

【計画事業費 165億円】

(ハード対策)

- 雨水ポンプ場の整備
- 協働による雨水流出抑制の推進
- 水再生プラザ・ポンプ場の耐震化

(ソフト対策)

- 大雨に備えた情報提供
- 地震時等における
下水道事業の継続性確保

- 雨水拡充管の整備
- 管路の耐震化
- バックアップシステムの構築



【協働による雨水流出抑制】

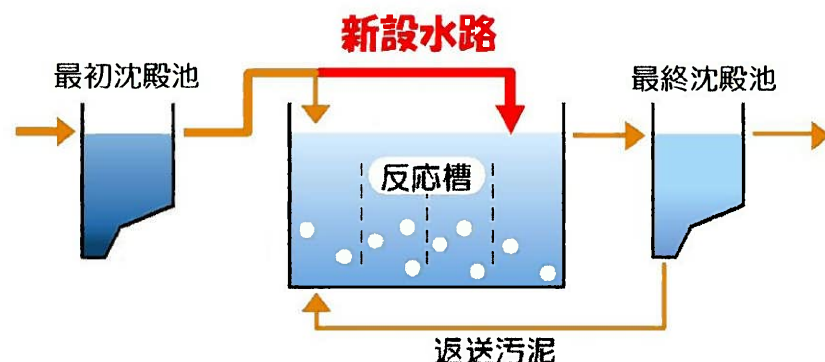
■主な達成目標

	27年度末	32年度末	備考
雨水拡充管 整備延長	197.7km	204.3km	雨水拡充管の整備延長
圧送管バックアップ システム整備率	84%	100%	整備計画延長のうち整備 が完了した延長の割合

<下水道整備と水質改善>

【計画事業費 49億円】

- 下水道整備
- 合流式下水道の改善
- 処理の高度化の推進



【雨天時下水活性汚泥法】



【下水処理水放流先河川の様子（茨戸川）】

■主な達成目標

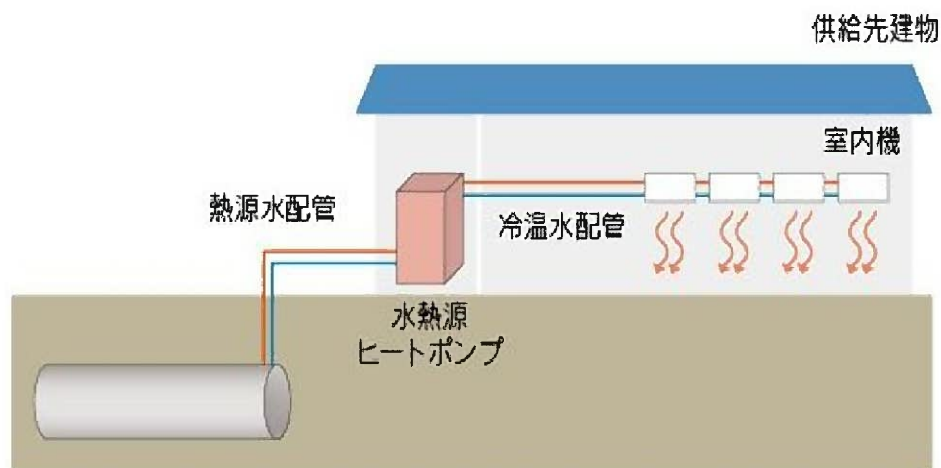
	27年度末	32年度末	備考
合流式下水道 対策率	70%	70% (H33で100%の見込み)	合流式下水道の改善対策 が完了した区域の割合
目標放流水質 達成率	100%	100%	年度毎に設定する各水再 生プラザの目標放流水質 達成状況

<下水道エネルギー・資源の有効利用>

【計画事業費 5億円】

○下水道エネルギーの有効利用

○下水汚泥の有効利用



【下水熱エネルギー導入のイメージ】



【改良埋戻材としての有効利用】

■主な達成目標

	27年度末	32年度末	備考
下水道エネルギーを活用した設備の導入箇所数	2か所 (H23-H27)	4か所 (H28-H32)	下水熱利用: 3か所 蒸気発電設備: 1か所

中期経営プラン2020

第1章 策定の背景

第2章 中期経営プラン2020の位置づけと取組方針

第3章 主要施策の展開

第4章 健全で安定した経営への取組

第5章 下水道サービスの向上

第6章 進行管理

<経営基盤の強化>

財務体質の強化

- 施設の延命化とトータルコストの縮減
- 民間委託の推進（民間活力の利用の促進）
- 他の事業との連携
- 財源確保の取組
- 適正な受益者負担のあり方の検討

組織力の向上

- 技術・知識を高める機会の充実
- 技術交流の推進
- 危機管理対応能力の強化

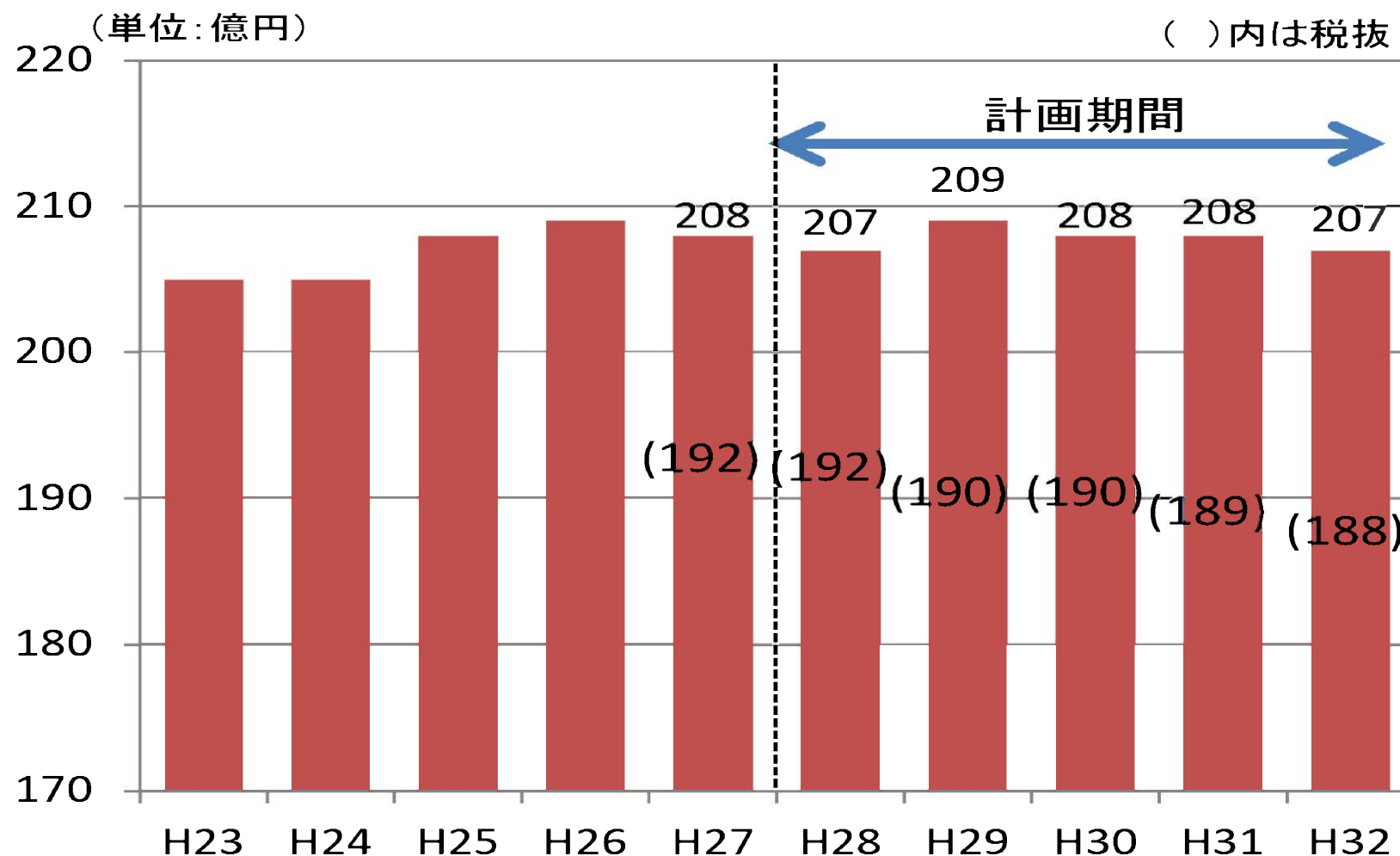


【下水道基礎研修】

<中期財政見通し>

【下水道使用料】

○節水意識の高まりなどにより、下水道使用料は減少する見込み。

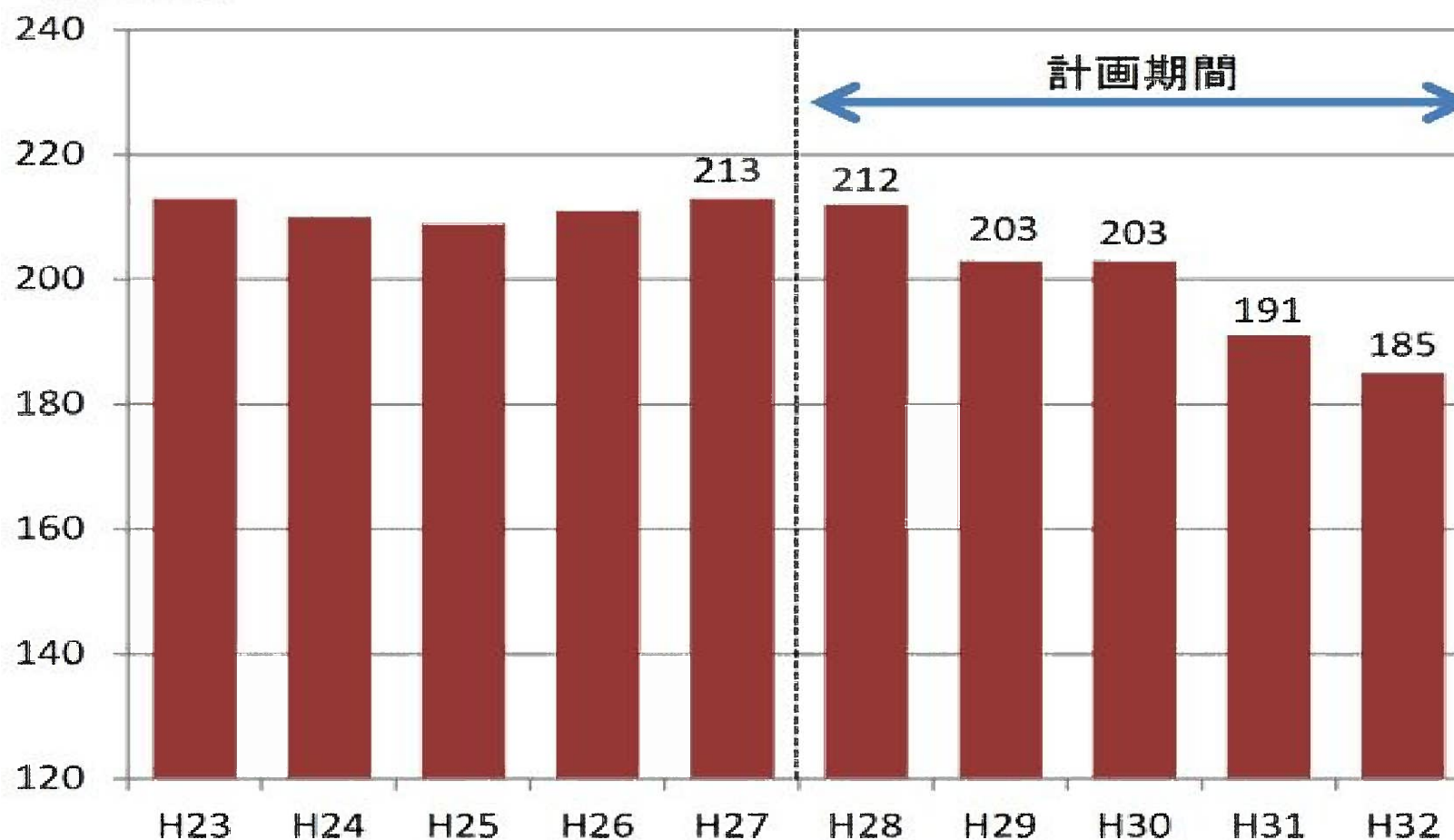


<中期財政見通し>

【一般会計繰入金】

○企業債元利償還金の減少に伴い、一般会計繰入金は減少する見込み。

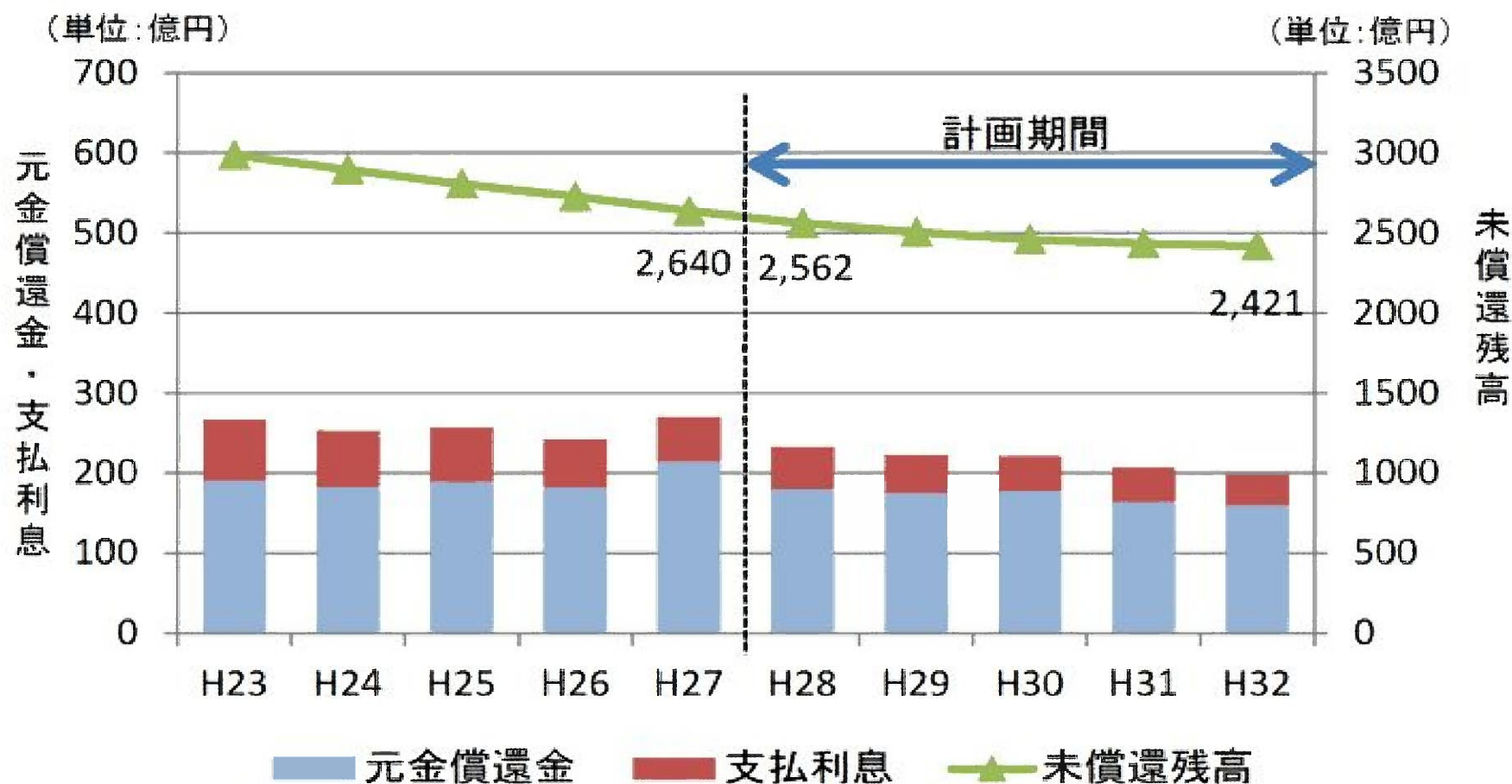
(単位: 億円)



<中期財政見通し>

【企業債元利償還金・未償還残高】

- 再構築事業の増加に伴い、企業債の新規発行額は増加するが、償還額が上回るため、未償還残高は減少する見込み。
- 元利償還金は、高い水準にあるが、減少する見通し。

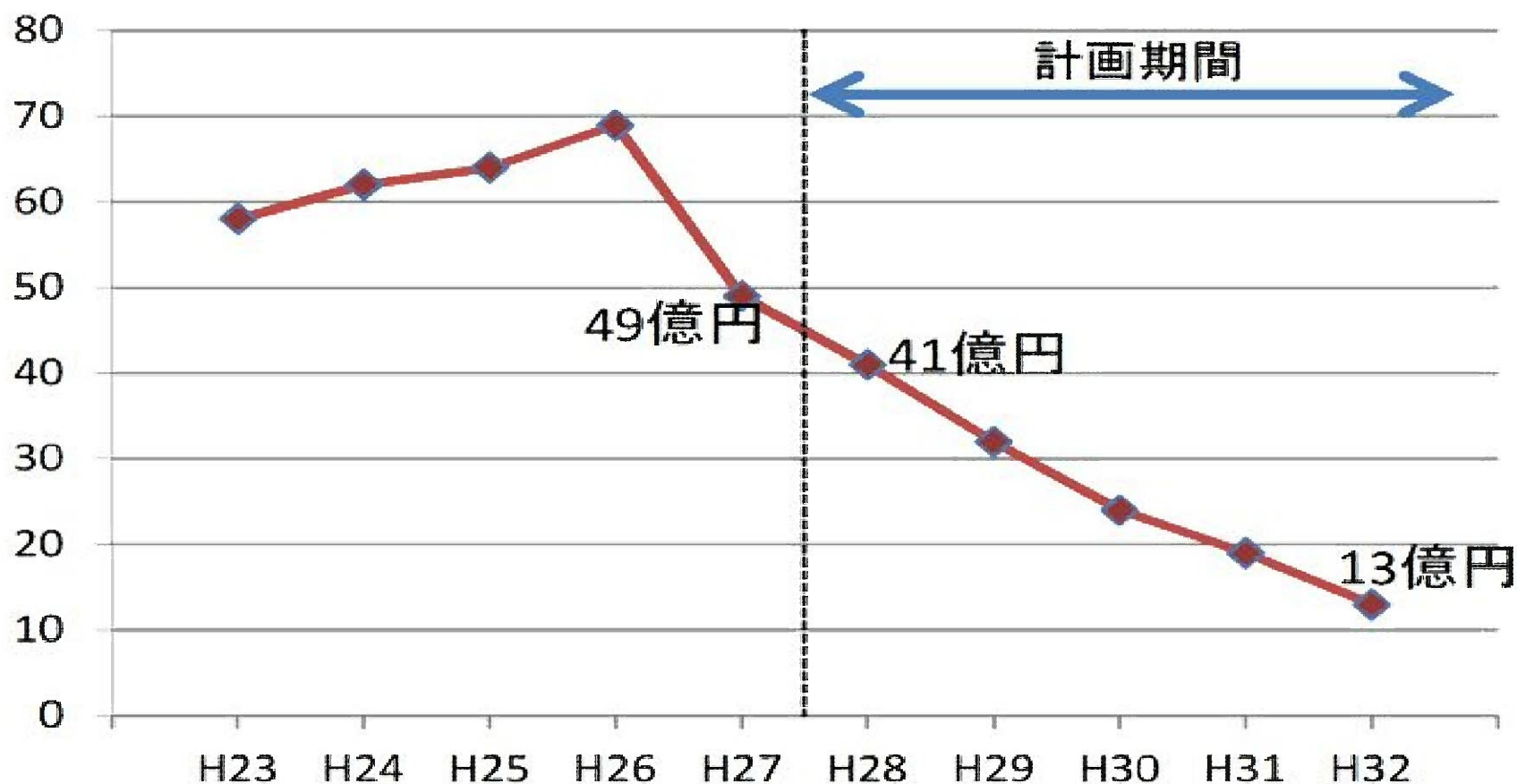


<中期財政見通し>

【累積資金残高】

○事業の選択と集中、維持管理の効率化などに取り組むものの、使用料収入の減少や調査修繕費用の増加により、資金残高は減少する見込み。

(単位: 億円)



中期経営プラン2020

第1章 策定の背景

第2章 中期経営プラン2020の位置づけと取組方針

第3章 主要施策の展開

第4章 健全で安定した経営への取組

第5章 下水道サービスの向上

第6章 進捗管理

<「情報提供」による市民理解の促進>

- 1 次世代の担い手となる子供たちへの環境教育の充実
- 2 下水道科学館による取組
- 3 その他の広報活動の充実

<「市民参加」によるニーズの把握>

- 1 下水道モニター制度の充実
- 2 出前講座制度の活用
- 3 その他の広聴活動の充実



【下水道科学館フェスタ】



【下水道モニター】

中期経営プラン2020

第1章 策定の背景

第2章 中期経営プラン2020の位置づけと取組方針

第3章 主要施策の展開

第4章 健全で安定した経営への取組

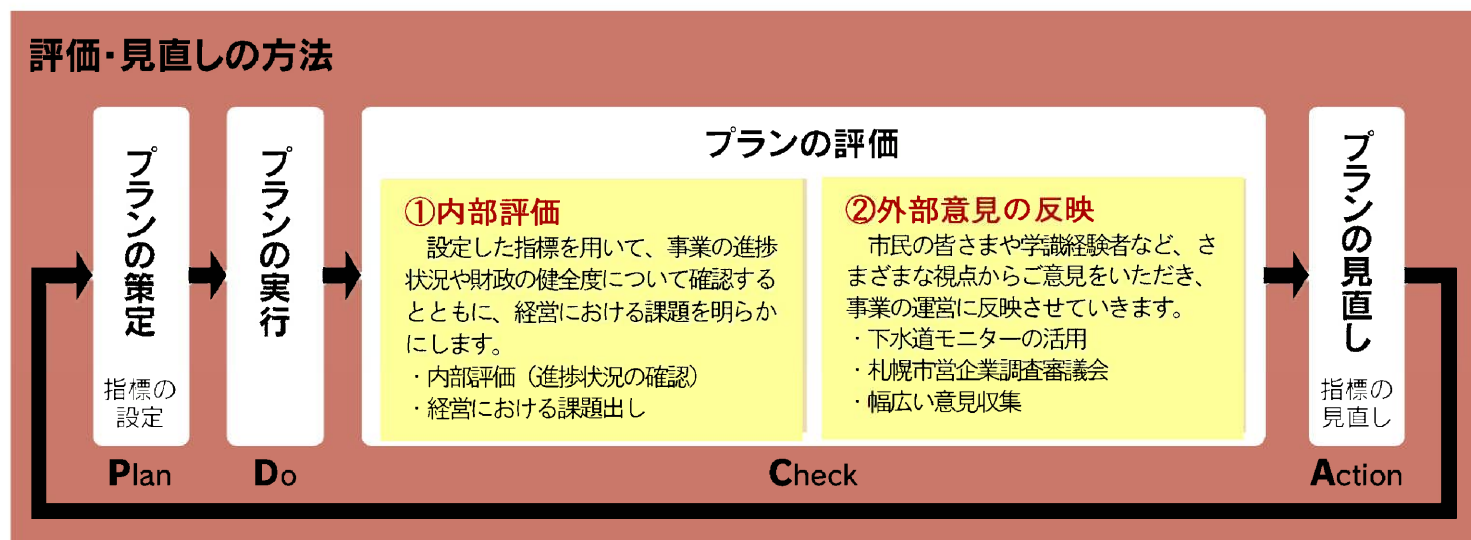
第5章 下水道サービスの向上

第6章 進行管理

< 中期経営プラン2020の進行管理 >

■実施状況の評価

- 「中期経営プラン2020」を着実に実行し、指標を用いて年度毎に実施状況を確認するとともに、課題を明らかにし、PDCAによるプランの見直しに努める。



■評価結果の公表

- 運営状況や評価結果、見直し内容をホームページなどで公表。

■次期プランの策定

- 評価結果に基づき、次世代へつなぐため、次期経営計画を策定。

今後のスケジュール

- H27.11.25 市営企業調査審議会 下水道部会
- H27.12.8 第4回定例市議会 建設委員会
- H27.12.15～
H28.1.15 パブリックコメント
- H28.1 下水道モニター
- H28.3 策定・公表